

福井県にある大本山永平寺を開かれた道元禅師。

そのお姿は、残されている絵によって、現在でも見る事が出来ます。前を静かにじっと見つめる力強い二つの眼、がっしりとした顎、ゆったりと坐られた姿。厳しい修行のあらわれでしょうか、武骨なまでのお姿です。

道元禅師の中国での厳しい修行を窺わせる一つのエピソードがあります。

修行の初めのころ、禅師は隣で坐禅をしている修行僧がお袈裟を身につける時の作法を眼にして、とても感激されました。その隣の僧侶は、畳んだままのお袈裟を捧げ持って頭の上に載せ、合掌をして、

- 大哉解脱服（だいさいげだつぷく）
- 無相福田衣（むそうふくでんえ）
- 披奉如来教（ひぶによらいきょう）
- 広度諸衆生（こうどしよしゅじょう）

「この偉大なお袈裟は、人間のあらゆる執着や煩惱を除く幸せのお袈裟である。お釈迦さまの教えのあらわれであるこのお袈裟を身につけ、生きとしいけるものを救おう」と三回ゆっくりと唱えたのです。

もともと、道元禅師は日本にいる時、お袈裟のつけ方に作法があることを『阿含経』というお経の中で知っていました。しかしその作法が具体的にどういうものであるか日本には伝わっておらず、道元禅師も知りませんでした。周りの僧侶も知らず、その当時、誰もそのようにお袈裟を大切には扱っていなかったのです。

ですから、中国で隣の僧侶が静かに正しい作法でお袈裟を身につけている姿を目の当たりにして感激のあまり涙を流され、そして一大決心をされたのです。

正しい教えを日本に伝えたい。そしてお釈迦さまから代々伝わったお袈裟の作法や坐禅を広めたいとの願いでした。

晩年、道元禅師は禅師のもとで修行するたくさんの人々が正しい作法によりお袈裟を付けて坐禅する姿を見て、中国で誓った願いが叶ったと大変喜んでおられたようです。

では、その教えはどのようなものでしょうか。

道元禅師の教えの根本は、正しい教えを実践している師匠のもとで、絶えることなく続けられる修行しゅぎょうにありました。

道元禅師が修行を中心に据えた教えを広められたのは、自身の中国天童山てんどうざんでの修行体験がその原点にあります。

このように道元禅師の教えとは、お経の文章を読んで学ぶだけのものだけではなく、身をもって学び、実践する教えなのです。

こんにち今日でも曹洞宗の寺院では、道元禅師がお伝えになった作法にのっとり、お袈裟を身につけ、修行を行っているのです。

今日は、道元禅師の教えの一端いったんを紹介しました。